

## 令和4年度 小中一貫教育研究

松戸市立根木内中学校  
松戸市立根木内小学校

◎一貫教育を進めるにあたって

### 「松戸の学びモデル」

視点Ⅰ 学ぶ内容・機会

視点Ⅱ 学ぶ環境・システム

【基本施策】Ⅱー2 子どもたちのためのよりよい教育システムを構築します

＜小中学校児童生徒＞

●特色ある学校づくりを推進します。

視点Ⅲ 学びの支援

「松戸の学びモデル」の視点の一つである「学ぶ環境・システム作り」のなかに、子どもたちのためのよりよい教育システムの構築が掲げられています。根木内中学校、根木内小学校は同じ通学区域になっており、児童生徒・保護者・地域が全く同じ地区であることが大きな特徴となっています。その中で、教育だけが小学校と中学校に分かれています。

そこで、小学校、中学校が連携し9年間の教育課程（教育システム）を作り上げることで学校・児童生徒・保護者・地域が9年間を通して同じ環境の中で共に成長していける環境を整えていくことで、根木内の地域がつながり、「教育はみんなで」をこの根木内地区で実現できるものと考えます。

### ＜研究が生み出す効果＞

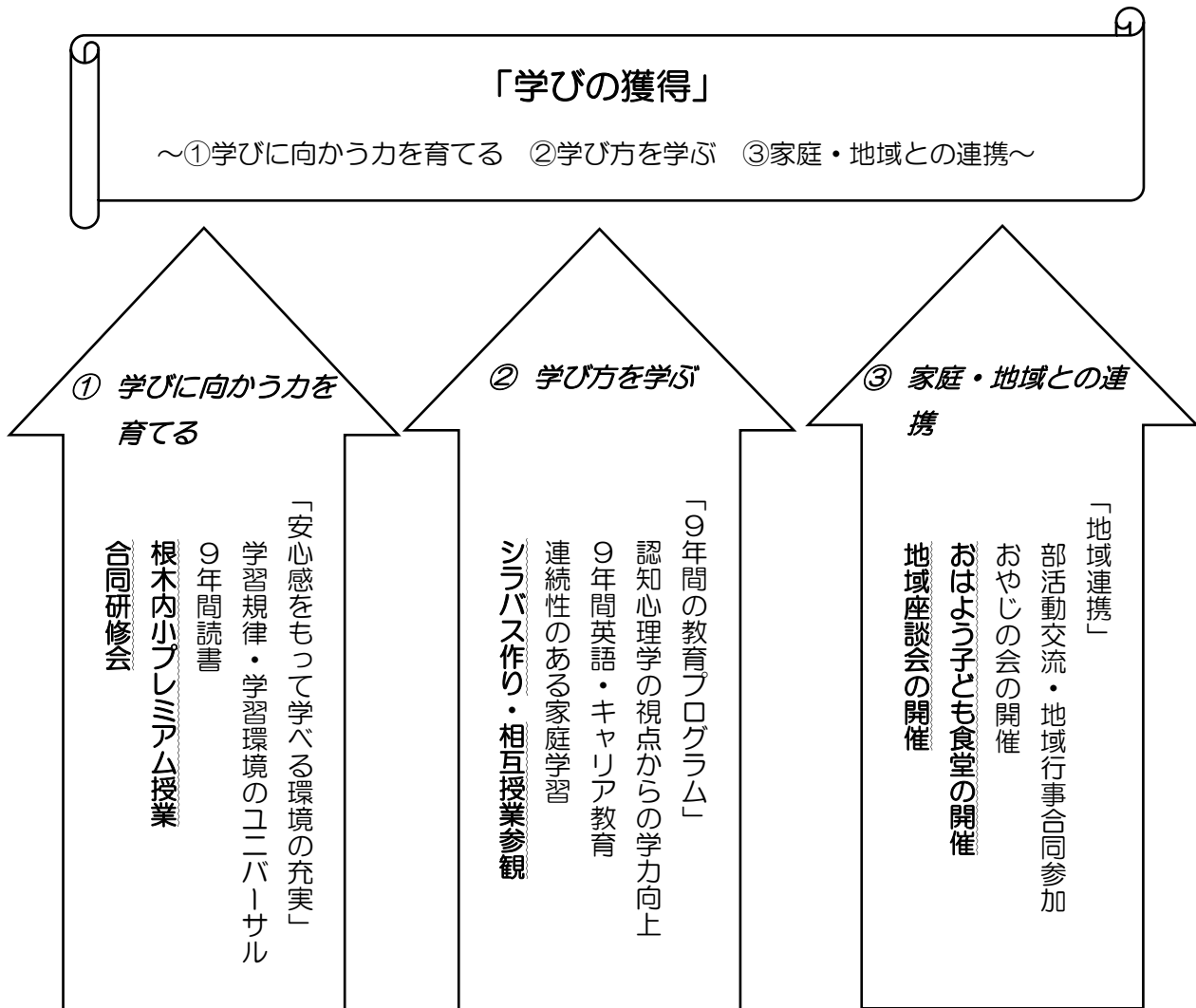
- ① 小学校と中学校がつながることで、中1ギャップを小さくすることができる。
- ② 9年間の連続性のある学びのシステムが作り出せる。
- ③ 教職員の交流・連携により児童理解が深まる。
- ④ 児童生徒の部活動交流・地域行事などの異年齢交流により、心身の発達が期待できる。
- ⑤ 保護者・地域との連携を活性化することで、家庭や地域の教育力が高まる。

## 1 目指す児童・生徒像

根木内中学校	根木内小学校
≪学校教育目標≫ 確かな知性・たくましい心とからだ	≪学校教育目標≫ 目を輝かせて進んで取り組み、粘り強く頑張る子の育成
<目指す生徒像> ・自ら学び、真剣に考える生徒 (学びの獲得) ・友を思いやり、互いの個性を認め合うことのできる生徒 ・正しい判断力を持ち、実践できる生徒 ・できる根木中生 「あいさつ、時間、整理整頓」	<目指す生徒像> ・自分を理解し、好奇心を持ち、意欲的に学ぶ子 ・思いやりの気持ちを持ち、友達を理解できる子 ・健康な心と体について考え、主体的に行動する児童

## 2 根木内地区の目指す児童・生徒像

<目指す生徒像>



### 3 本年度の取り組み

#### ① 「学びに向かう力を育てる」

- ・合同研修会を夏に開催し、小学校・中学校でユニバーサルデザインを取り入れ共通の環境作りを行った。(教室前面の環境・タイムタイマーの設置)
- ・学習規律の一つとして、学習問題の提示を小学校・中学校で共通して取り組んだ。
- ・「プレミアム授業」6年生を対象に中学校の教室で中学校の教員による授業を行った。
- ・9年間読書に向けて、小・中学校で読書活動を朝の時間に設定した。

#### ② 「学び方を学ぶ」

- ・小中で、家庭学習を「マイスタ」という名称に統一し、家庭学習の定着に取り組んだ。
- ・相互授業参観を年に1回行い、全教職員が相互に授業を参観。情報交換を行った。
- ・夏の研修会にて、中1の望む姿を共有し、シラバスづくりを各教科で行った。

#### ③ 「家庭・地域との連携」

- ・小金原地区地域座談会を伊藤純一教育長を招いて実施。
- ・「子ども食堂」を小学校で2回開催。「おはよう子ども食堂」の組織結成。

### 4 来年度の取り組み

#### ① 「学びに向かう力を育てる」

- ・ユニバーサルデザインの視点による授業づくり
- ・合同研修による小中連携
- ・学年担任制・教科担任制の導入

#### ② 「学び方を学ぶ」

- ・9年間の「連続性のある学び」を目指したシラバス作り
- ・9年間の連続性のある家庭学習の定着
- ・小中相互参観、一日交流の実施

#### ③ 「地域との連携」

- ・「マイスタ」を活用した家庭との連携による学習習慣の確立
- ・「おやじの会」との連携。
- ・「子ども食堂」の夏休みの小中合同開催。
- ・SSWの週1日配置。生徒指導部会への参加に加え、定期的な情報交換会の実施
- ・小学校、中学校との合同研修会の開催。